

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672700297		
法人名	医療法人社団 正峰会		
事業所名	モンファミーユ舞鶴(東棟)		
所在地	京都府舞鶴市大字和田小字中田1065		
自己評価作成日	平成27年2月10日	評価結果市町村受理日	平成27年7月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2672700297-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかで笑顔のある暮らしを目指し、竹内式ケアとバリエーションケアに全員で取り組んでいる。 ・生きがいを持って暮らしていただく事を目標に、一方的な介護ではなく、残存能力を活かしながら共同生活の場で役割を持ってそれに取り組んでいただいている。 ・認知症ケアのプロ集団を目指し、職員のほぼ9割が認知症実践者研修を履修しており、加えてその1/3が認知症実践者リーダー研修の履修を終えている。 ・認知症サポーター養成講座を地域の公民館等で年2回定期的に開催し、地域交流に力を入れている。 ・家族旅行を想定した日帰り旅行を毎年開催しており、ご家族様とご入居者様の絆を大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は「笑顔とぬくもりのある暮らしの中で、一人ひとりが自分らしく生きる」と理念を掲げ、理念を実践するために具体的な事業計画を立てています。事業計画を作成する際には職員をはじめ家族や運営推進会議の参加者から意見をもらい、半期ごとに振り返りを行いながら実践にしています。毎年顧客満足度アンケートを行い出された意見からサービスの向上に活かしたり、事業計画や意見が運営に活かされていることを伝えていく中で徐々に意見が出やすくなってきており、信頼関係が深まっています。また隣接する施設の嘱託医が事業所の協力医でもあり連携が取りやすく、看護師の配置もあり常に相談できる体制が整えられています。看取りの支援の経験もあり家族や本人の意思確認を行い話し合いを重ね看取りの介護計画を立てチームワーク良く支援に取り組んでいます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を定め、スタッフルーム・玄関に掲示し実践している。また、申し送り時の唱和に努めている。	「笑顔とぬくもりのある暮らしの中で、一人ひとりが自分らしく生きる」との事業所独自の理念を作り、理念の実践の場として具体的な事業計画を立てています。申し送りや会議の際に唱和し日々意識し、半期ごとに振り返りを行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家と離れているため、日常の付き合いは無いが、夏まつりなど行事の際には婦人会や民生委員、近隣の中学生に参加願っている。また、認知症サポーター養成講座を地域の集会所で開催。	隣接する同法人の施設のお茶会に行ったり、合同で夏祭り等の行事の際に地域の方々や交流しています。認知症サポーター養成講座を地域の方や中学生に向けて実施し、毎月散歩や体操のボランティアや中学生の職業体験を受け入れたり、運動会の招待を受け徐々に関係が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度、認知症サポーター養成講座を地域の集会所2箇所で開催し好評を得た。また、「シルバー110番」を開設し、誰でも相談できる窓口として公表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年度の事業計画策定にあたっては、計画案をお示ししてご意見を伺い反映している。	会議は家族代表や市職員、民生児童委員協議会会長、介護相談委員等の参加を得て隔月に開催しています。事業所の運営状況や行事等の活動報告を行い、意見交換をしています。事業計画を作成する際に参加者から意見をもらったり、地域の情報や課題を聞き事業所が地域貢献や行事への参加のための取り組みに繋げる等、有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市の職員に参画いただいている。	市の担当者が運営推進会議への参加があり、レジュメや議事録を郵送し、事業所の実情を知ってもらっています。集団指導への参加をはじめ管理者は日ごろから市の担当者とコミュニケーションを取り相談しやすい関係を築き、介護相談員を通じて事業所のサービスについて話合っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部の研修に出向き、受講者は会議に持ち帰り、他職員に伝え身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の鍵は掛けず自由に行き来できる。	入職時の研修時に身体拘束について学ぶ機会があり周知を図っています。言葉による行動の制止も行わないよう努め、玄関の鍵はかけずセンサーを利用し見守り、利用者が外に行きたい様子があれば一緒に外に行くこともあります。現任の職員に対する研修への参加や勉強会の実施を課題としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の意識を高めるため、研修会には積極的に参加し、全職員に回覧や会議で周知させている。		

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は何れも対象者なく学ぶ機会も少ないが、隣接老健の支援相談員から知識を得たり、研修の実施により理解を促進することで、支援の体制を備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結あたっては、ご家族に来訪願いや契約書や重説の内容説明を十分に行い、その場で疑問点を伺っている。改定時は書面での説明となるが、電話でのお問い合わせ窓口と担当者を明記し、疑問の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を掲示している事に加え、ご意見箱を置き、苦情や希望など貴重な意見を伺う。直接伺ったものは報告書にあげ、職員間で検討し対応している。また、CSアンケートを年に1回実施し事業計画に反映している。	毎年顧客満足度アンケートを行い出された意見からサービスの向上に活かしたり、事業計画の作成時に家族からの意見を反映しています。事業計画や意見が運営に活かされていることを伝えていく中で徐々に意見が出しやすくなってきており、信頼関係が深まるように取り組んでいます。また玄関に意見箱と直接法人理事長に届く葉書を設置しています。今後個別面談も実施したいと考えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の業務報告書や棟会議で、提案や意見を聞く機会を設けている。また、職員と管理者が面談する期会を年2回設けており、具体的な実現方法についても話し合い運営に反映している。	毎月職員は個々に業務改善や提案を書面に記入したり、ユニットごとの会議では業務上の気づき等について意見を出し合い運営に反映しています。食事や防災等の委員があり、会議には委員からの提案を事前に書面に記入し検討しています。また半期毎に個人面談を行い、意見を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加希望や資格取得に向け自ら向上心を持って取り組めるよう、人事賃金制度を整備し、個人毎の目標管理として半期毎に評価・指導を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職能チェックシートの活用や、希望する研修に参加できるように取り組み勤務日程を考慮されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京都府グループホーム連絡会及び舞鶴市グループホーム連絡会において交流の機会をもち良いところは取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の要望や日頃の生活をお聞きしたうえで、一ヶ月間集中して様子を見せていただき、訴えや行動を把握し本人の望まれる援助をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様と面談し、要望や日頃の様子今までの生活等聞かせていただき何でも話していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの為他のサービスは利用出来ないが、要望があればご相談することとしたい。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が援助を受けながら生活する事を重点に置き、出来ること(身の回り・料理・掃除)を職員と共にやっていただいている。又人生の先輩として教えを請うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	度々来られるご家族様には、その都度近況報告をし遠方で来られないご家族様には毎月の手紙や写真でGHでの暮らしを報告している。必要のある時は電話で連絡をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅へ定期的に戻られる事への支援や、友人の来訪時には静かな場所の提供など、要望に沿い支援している。	友人の来訪があった際には居室に椅子を準備し、ゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。ドライブに出掛けた時に自宅に立ち寄りたり、買い物や外出先で知人と出会い会話をするなど、馴染みの人や場所を大切にしています。また年賀状をもらった友人に電話をかけたこともあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や性格を把握し相性を確認しながら席位置に配慮したり、レクや作業等で互いを支えあえるような関係構築に努めている。		

モンファミリー舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた場合には思い出アルバムを贈ったり、入院退居の場合はご家族に定期的に連絡を入れ、病状の経過や今後の方針について話し合う機会を設けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話の出来る時間を多くとり思いや希望を聞くようにしている。聞き取りが困難な場合は、何気ない言葉や行動も記録し職員間で共有している。	入居時に自宅を訪問し本人・家族と面接をしたり、家族にアセスメントに記入してもらい、日常の様子や好み、生活歴等の情報を聞き、意向の把握に努めています。入居後は利用者とのコミュニケーションを大切にし気付いたことや日々の様子を記録に残し、カンファレンスで本人本位に思いを検討し職員間で情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	主治医の情報提供書やご家族様からの情報に加え、日常会話の中で昔の事を話題にして聞き取りを行なう等把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は記録に残し、特記事項は連絡ノート等で共有する。また月1回の棟会議で、お一人おひとりの現状を全職員で話し合い、その把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングや、電話や来訪時に、ご家族の要望を聞き、担当者を含やめスタッフ全員で話し合い介護計画の見直し評価をして、その都度ご家族様に説明し承認をえている。	本人・家族の思いやアセスメントを基に会議を開き介護計画を作成しています。毎月会議で実践状況を確認しモニタリングを行い、状況に変化がなければ6か月毎に見直しています。見直しに当たっては医師や看護師からの情報を加味し、1年に一度は再アセスメントを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや入居者情報ファイルに記入し情報を共有して対応を統一するようにしている。新たな課題があればその都度見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば相談や支援していきたい。		

モンファミリー舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校、中学校、高校、婦人会ボランティアなどの訪問を受け、交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて相談、必要なら他の医療機関を受診している。	入居時に今までのかかりつけ医の継続も可能であることを伝え、継続している方は家族が受診を支援し必要に応じて情報提供書を記入し情報交換をしています。隣接する施設の嘱託医が事業所の協力医でもあり連携が取りやすく、個々の利用者に合わせた往診を受けています。看護師の配置もあり常に相談できる体制が整えられています。また、必要に応じて歯科の往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて隣接老健の看護師に相談、必要ならかかりつけ医や、状況に応じて他の医療機関を受診する。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、ご家族様との連絡を密にし、職員が病院へ面会に行ったときには、看護師等と情報を交換しホームで共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のご本人及びご家族様の意向を定期的に確認し書面化している。かかりつけ医からご家族へ説明をもらい、ご家族様と話し合い想いを共有したうえで看取りに取り組んでいる。また、状態の変化に応じその都度ケアプランを変更している。	入居時に重度化や終末期の対応についての指針を説明し、年に1回は緊急時も含め意向の確認をしています。状況が変わる中で医師から説明があり家族や本人の意思確認を行い、話し合いを重ね支援しています。看取りの支援の経験もあり、カンファレンスを行い介護計画を立てチームワーク良く取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備しており、実際に緊急時対応を行なった時は、その対応を振り返り次に活かすようにしている。定期的に救命救急講習等に参加いただき、フィードバック研修を内部で開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練時に地域の消防団にも参加していただき協力をお願いしている。また、原子力災害対応マニュアルを整備し、同避難訓練を実施した。	年に2回消防訓練を行い、内1回は消防署の立ち合いの下消防団の協力も得て夜間を想定し通報や避難誘導、初期消火等の訓練を行っています。原子力災害についてはマニュアルを整備し避難訓練を実施し、また府の南部への避難ができるよう協定書に向け取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	先人に対する尊敬を忘れず、想いを否定したり、心を傷つけない言葉づかいや、プライバシーに注意して支援にあたるようにしている。	接遇マナー研修を実施し利用者を尊重し丁寧な対応を基本とし、事業所としてのの接遇目標をたて唱和し、個々にも接遇目標を立て毎月振り返りを行っています。特に排泄の支援時には声の大きさや直接的な言葉は使用しないよう心がけています。不適切な対応があれば都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定が難しい状況にあるが、バリケーションケアを活用しながら日常会話の中で希望を聞いて、カルテに記録・共有したうえで職員全員で自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に自由であり希望に添って支援しているが、唯一外出となると思うように支援できていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等のご家族に用意していただいている。理美容は隣接老健に出入りしている業者を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常会話の中で好みをお聞きしたり、食事の準備や配膳片付けも、出来る範囲で手伝ってもらっている。聞き取った好みは厨房に伝え、改善を促している。	隣接する施設から食事が届き、ご飯は事業所で炊き利用者と一緒に盛り付けや準備を利用者と一緒に行っています。個々の好みや意見をアンケートで聞き食事委員会で検討しています。希望から事業所で漬物を準備したり、炊き込みご飯、頂き物の野菜を使って一品作ることもあります。事業所で鍋やバーベキューを行ったり、誕生日に個別外食の実施、花見には弁当を持参し楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事摂取量の記録、体重増加に気を配り個人の状態をみて栄養士とも相談し、提供している。夜間・日中共に、水分摂取量1500ccを目標に記録し夜間は、ペットボトルを持ってもらい声掛けをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前に、うがいと口腔ケアの声掛けを行い、夜間は入れ歯洗浄液に浸している。		

モンファミリー舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表でパターンを把握し誘導に努めており、全員トイレで排泄されている。尿漏れがあるため、朝夕の清拭や入浴時の確認により、匂いに対する配慮を行なっている。	排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し個々の利用者のリズムでトイレで排泄できるよう支援しています。家族とも相談し個々の状況に合わせたパッドやおむつ等の排泄用品を検討したり、夜間もトイレに誘導したりポータブルトイレを使用し、徐々に失敗が減ってきている方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食やおやつにヨーグルトを用いたり、水分摂取の声掛けや運動で、腸の働きを促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気が進まない日は翌日に再度お誘いする等、ご本人の希望に合わせて入っていただいている。	入浴は週に2回以上を基本とし、一人ずつゆっくりと入ってもらっています。重度の方も機械浴があり浴槽に入ることができ、ゆず湯などの季節湯を楽しんでもらっています。拒否される方には声掛けの工夫やタイミングを図り、翌日に変えたり清拭をすることもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず一人ひとりに合わせて対応し、室温、照明、布団など個人の希望を尊重して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬、飲み忘れがないよう処方箋やお薬情報個別にファイル保管している。また処方が変わった際は、個人用申し送りや与薬箱に変更内容を書き職員全員で共有している。服薬確認はトリプルチェックで行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、料理、洗い物等役割を持って日々過ごされている。楽しみや、気分転換、リハビリを兼ねてリクレーションの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に散歩はなかなか出来ていないが、月に一回程度の外出計画を立て出かけている。しかし一人ひとりその日の希望にはそえていない。	日々広い庭に出て花の水やりをしたり、テラスに出てお茶を飲むなど外気に触れる機会を多く持っています。つつじや紫陽花等の季節の花見や紅葉狩りにドライブに出掛けています。家族と一緒に水族館や外食に日帰り旅行に行き楽しんでもらっています。	

モンファミーユ舞鶴(東棟)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額を所持されている方もいるが、支援できていない。ご本人が外出先で買い物をされた時は、後家族への立替金として扱う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々チェックし快適に過ごしていただけるよう管理している。中庭やデッキには、季節の花が、育てられている。	共用空間は広く回廊になっている廊下に中庭を見て休めるベンチを置いたり、個々の利用者が寛いで過ごしてもらえるようにテーブルや椅子等の家具の配置をしています。生花やこいのぼりなどを飾り、リビングから見える庭や周囲の景色から季節を感じられる空間となっています。清掃や温湿度管理にも気を配り、心地よくすご出る環境作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下のベンチで気の合った入居者同士お話をされている。 独りになりたければなれるところもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に何をを持ち込まれても良いとお伝えしている。ソファーベットの、仏壇、テレビ、椅子等持ち込んでおられる方もおられる。	出窓があり明るい居室に利用者が使い慣れた筆筒や椅子、机などの家具を持ち込み、本人の希望や家族と相談し配置を決めています。趣味の編み物や生け花、折り紙で作った作品などの他、家族の写真等を飾り、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な方、視力の衰えた方も施設内を自由に移動できるように廊下にも手摺りを設置し安全確保に努めている。		